

福島第一原子力発電所現地確認報告書

- 1 確認日
令和6年6月14日（金）
- 2 確認箇所
5・6号機タービン建屋（図1）
- 3 確認項目
5・6号機建屋滞留水の状況

4 確認結果の概要

東日本大震災以降、サブドレン設備の停止により5・6号機建屋地下階に地下水が流入している。当設備の復旧工事*が完了し、令和4年3月28日から、建屋周囲の地下水汲み上げが開始しているものの、5・6号機建屋地下階への地下水の流入は継続している。

5・6号機建屋地下階に溜まっている地下水（以下「滞留水」という。）は、F1タンクエリアに移送され、浄化处理された後、構内に散水されている。（前回確認：[令和6年4月8日](#)）

本日は、5・6号機建屋の滞留水の低減対策について、東京電力の担当者から机上で説明を受けるとともに、5・6号機タービン建屋地下階において、滞留水の状況を確認した。（前回確認：[令和5年1月19日](#)）

（聴取内容）

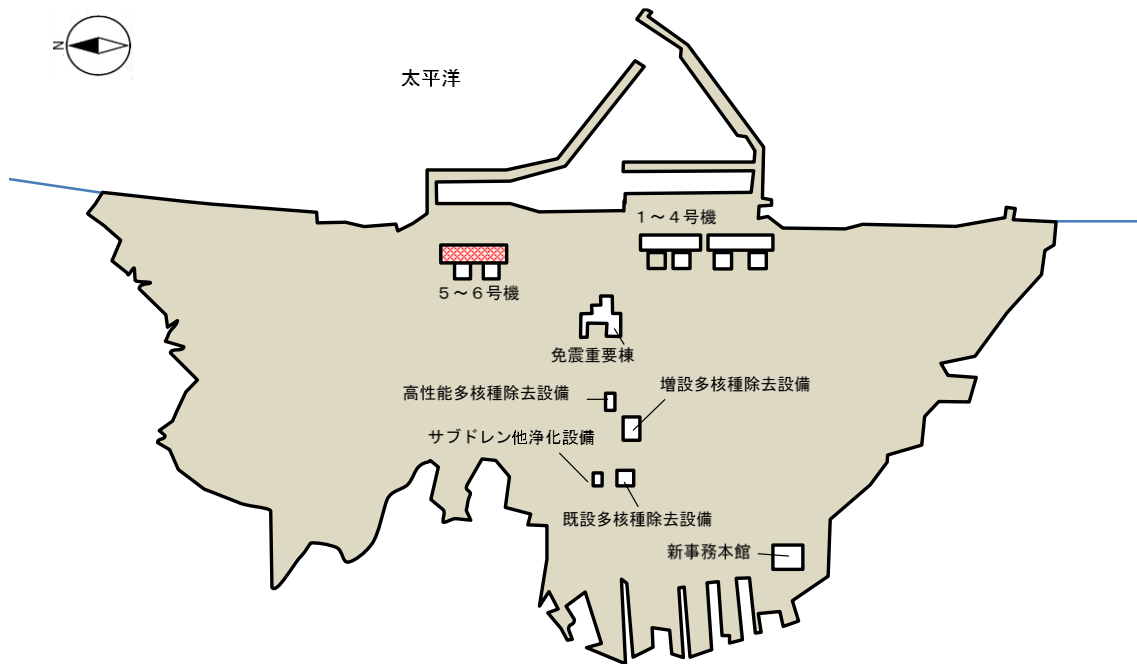
- ・ 5・6号機サブドレン設備の再開により、建屋への滞留水の流入量は低下している。今後、さらに流入量を低減させるために、流入箇所である配管貫通部の補修を計画している。

（現場の状況）

- ・ 5号機と6号機のタービン建屋地下階の滞留水の状況を確認したところ、それぞれ約40cmと約60cm程度の水位があった。（写真1）
- ・ 現場確認時、滞留水の移送（5号機タービン建屋→6号機タービン建屋）が行われていた。
- ・ 6号機タービン建屋地下階の滞留水をF1タンクエリアに移送するためのポンプ、配管が設置されていた。（写真2）
- ・ 確認した範囲では、配管からの水漏れ等の異常は認められなかった。

※5・6号機サブドレン設備復旧工事

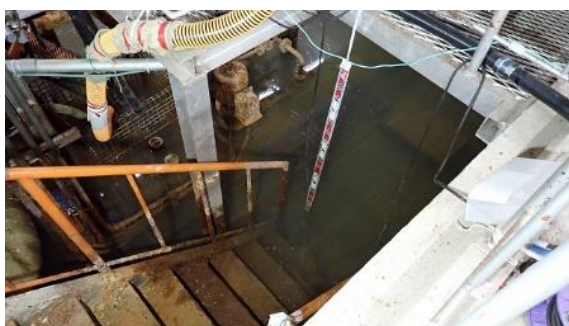
東日本大震災以降稼働を停止していた5・6号機建屋周囲のサブドレン設備（地下水くみ上げ設備）を復旧するための工事。サブドレン設備の復旧により地下水位を低下させ、建屋に流入する地下水の量を抑制できる。



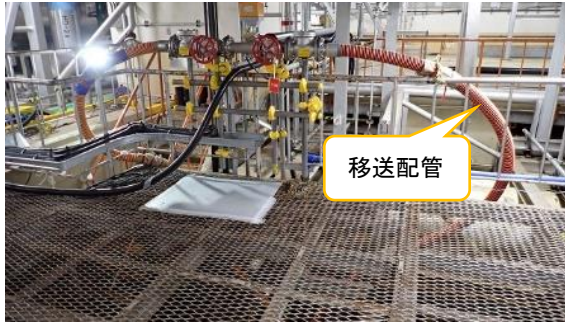
(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1)
5号機タービン建屋地下階の滞留水の状況



(写真1-2)
6号機タービン建屋地下階の滞留水の状況



(写真 2-1)
6号機タービン建屋地下階滞留水移送
配管の状況



(写真 2-2)
6号機タービン建屋地下階滞留水移
送ポンプの状況

- 5 プラント関連パラメータ確認
各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。